

「若手研究者支援」海外調査	
女性画家エレオノール・エスカリエの包括的研究	
氏名 志水 圭歩	所属 人間文化創成科学研究科比較社会文化学専攻 博士後期課程
期間	2024年9月13日～2024年9月23日
場所	フランス、パリ市
施設	フランス国立図書館、セーヴル陶磁都市アーカイヴ等

1. 本調査の目的

本研究では、絵画分野と、絵画等に比べて「偉大さ」で劣るとされていた陶磁器等の分野、その双方を行き来して制作を展開したフランスの女性画家、エレオノール・エスカリエ(1827-1888)を取り上げる。彼女は、国を挙げて産業振興が推進された19世紀後半のフランスにおいて、画家として培った力で陶磁器等の産業製品の改良に貢献し、時の国家から注文制作を請けるとともに、受賞等もする等、高く評価された。だが、従来の美術史研究では、制作分野間の序列構造に囚われずに、絵画や陶磁器等様々な分野を行き来して活動し、当時から高評価を受けていた彼女の活動の在りように着目して考察されることは、ほとんどなかった。先行研究では、二つの博士論文¹の一部で、陶磁器分野に偏って考察されるに止まる。そこで本研究では、彼女が手掛けた制作分野全てを横断的な視点で分析することで、彼女の多彩な制作の全貌と、彼女が一貫して志向した新たな装飾表現を明らかにする。今回渡航では、これまで作品の現存すら明らかでなかった作品や一次資料の調査を行う。

2. 得られた成果

フランス国立図書館において、エスカリエがサロン(官展)出品した作品に対する批評を入手したほか、セーヴル陶磁都市アーカイヴにおいて、彼女の未公開のデッサンや装飾画を調査することができた。加えて、年に一度の「欧州文化遺産の日」を活用し、通常非公開の国会議院において、エスカリエがデッサンを作成したタペストリーを調査した。これらの作品は、先行研究でほぼ取り上げられてこなかったものであり、今後、彼女の分野横断的な活動の考察を進める上で、有意義な調査となった。

3. 今後の展望

今回の調査成果は、報告者の博士論文の装飾パネル等に関する章で活用される見込みである。また、報告者は、今回の調査に際して、互いに関連するテーマを扱う研究者と意見交換を行うことができた。今後も、積極的にイニシアティブを発揮して研究ネットワークの構築を図り、エスカリエに関する初の包括的研究を牽引してまいりたい。

注

1. Tomoko Nishihara Moene, *La porcelaine de Sèvres. Le décor floral, 1848-1897: de la réalité botanique aux formes stylisées: les fleurs, les oiseaux, les insectes, les motifs d'inspiration végétale*, thèse de doctorat sous la direction de Bruno Foucart, Université de Paris IV, 2010., Sébastien Quéquet, *Entre beaux-arts et industrie: l'engagement des peintres de Salon dans les manufactures françaises de céramique: 1848-1891*, thèse de doctorat sous la direction de Rémi Labrusse, Université d'Amiens, 2012.

参考文献

天野知香『装飾/芸術: 19-20世紀フランスにおける「芸術」の位相』ブリュッケ、2001年

しみず かほ／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻

A Comprehensive Study of Eleonore Escallier
Kaho SHIMIZU

指導教員のコメント

志水圭歩さんは、今回の「若手研究者支援」プログラムを通じて、パリのフランス国立図書館やセーヴル陶磁都市アーカイヴに加え、平素は非公開の国会上院等で一次資料及び未公開作品の調査を実施し、大きな成果を得ました。彼女が実施した調査は、これまで陶磁器分野に偏って考察されてきたエレオノール・エスカリエの研究を壁画や絵画等の多領域にわたる新たな視点から考察し直し、エスカリエに関する初の包括的研究となる博士論文を進めるにあたって有意義なものでした。

また、彼女は関連するテーマを扱うフランスの研究者との間で意見交換を行い、関係構築に努めており、今後彼女が国内にとどまらず研究を展開してゆくことが期待されます。

お茶の水女子大学基幹研究院人文科学系 教授 天野知香